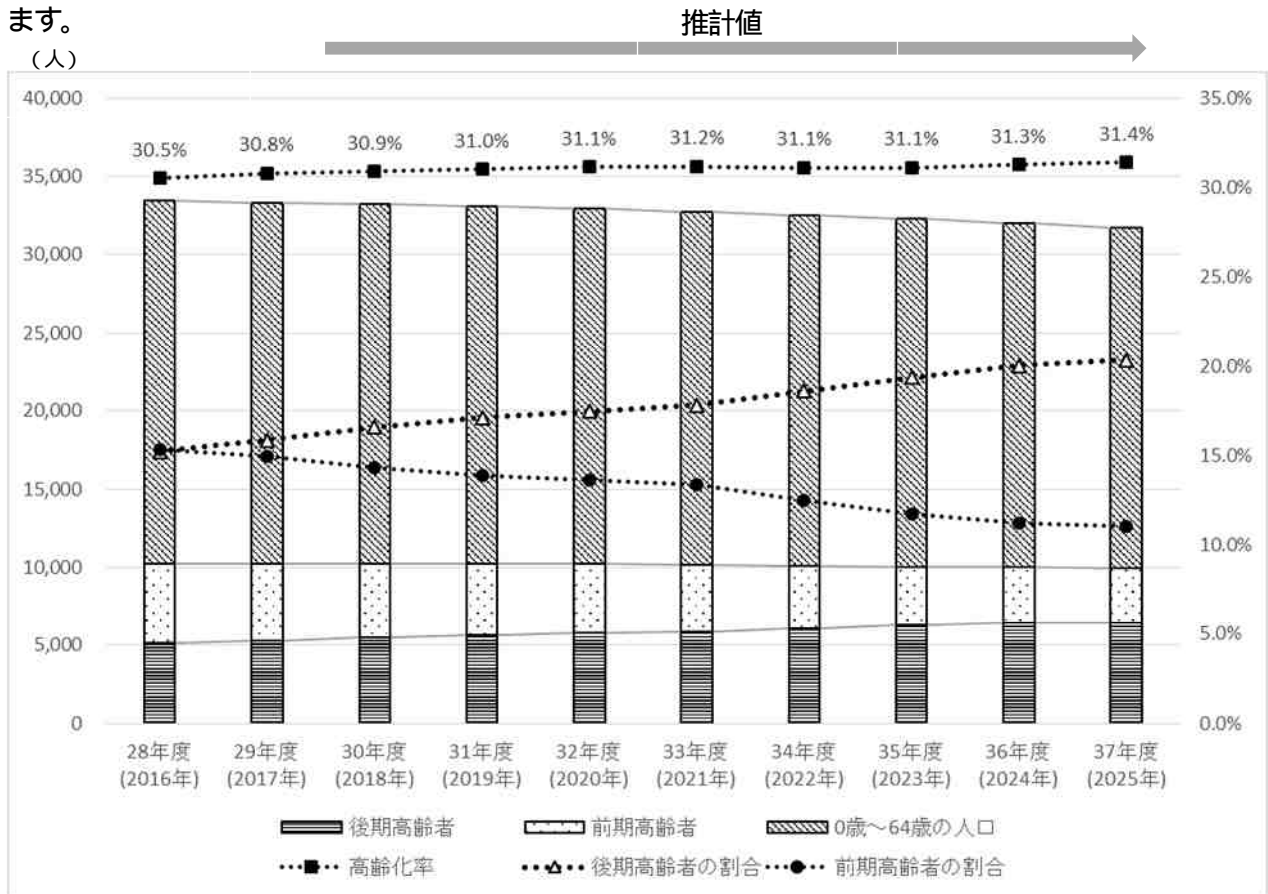

第2章

葉山町における高齢者の現状

1 高齢者数等の推移

(1) 高齢者人口等の推移及び推計

これまでの人口推移から今後十年間の人口を推計すると、緩やかに減少を続ける傾向が見込まれます。前期高齢者は3,500人程度まで減少することが見込まれますが、後期高齢者(75歳以上)は6,450人程度まで増加することが見込まれます。平成37年には高齢化率が31.4%まで上昇すると推計されます。

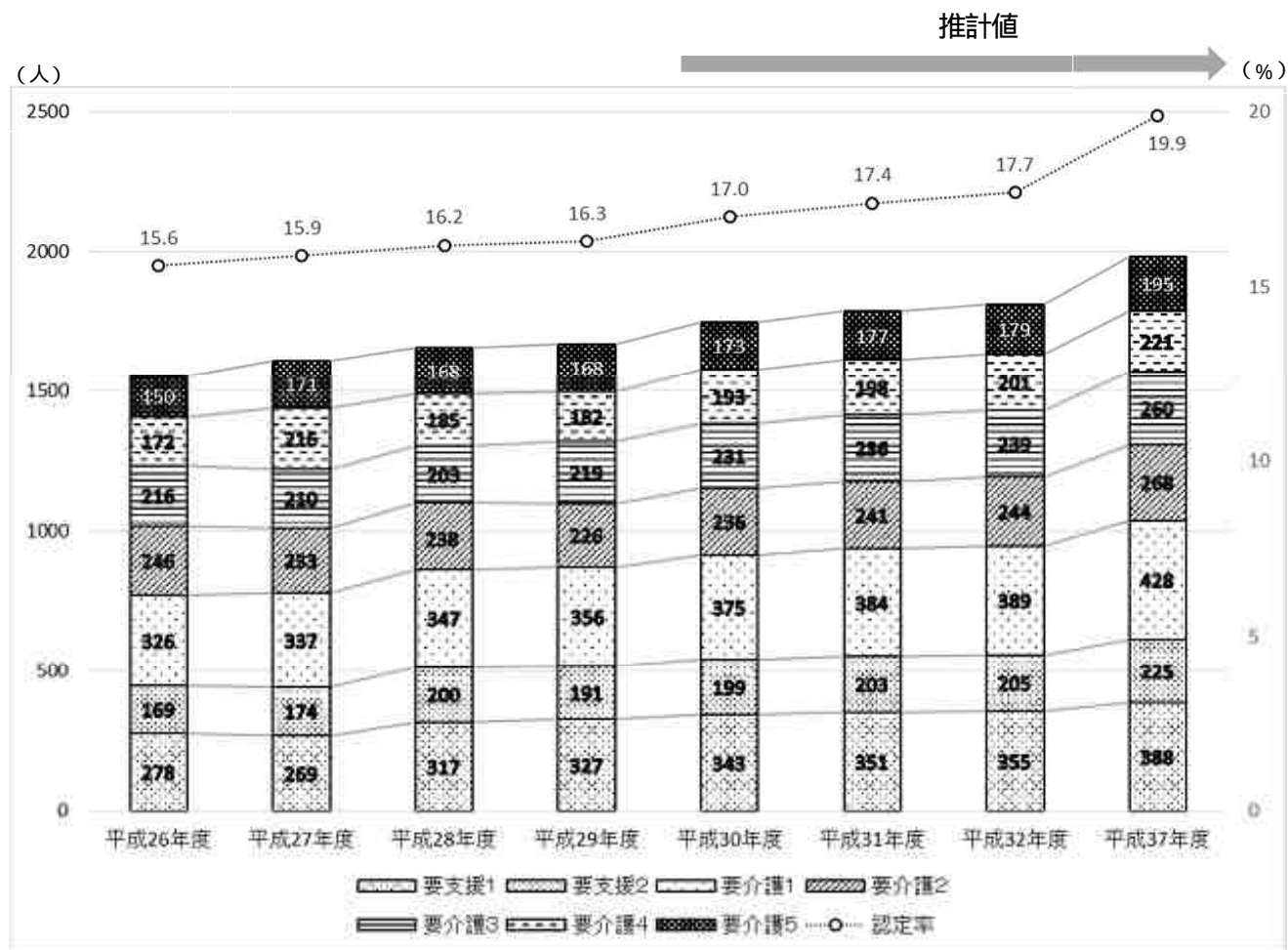


	28年度 (2016年)	29年度 (2017年)	30年度 (2018年)	31年度 (2019年)	32年度 (2020年)	33年度 (2021年)	34年度 (2022年)	35年度 (2023年)	36年度 (2024年)	37年度 (2025年)
総人口	33,479	33,345	33,227	33,081	32,916	32,718	32,503	32,266	32,003	31,722
65歳以上の人口	10,222	10,267	10,264	10,264	10,249	10,203	10,118	10,040	10,007	9,961
前期高齢者	5,129	4,982	4,755	4,599	4,496	4,379	4,071	3,791	3,599	3,509
後期高齢者	5,093	5,285	5,509	5,665	5,753	5,824	6,047	6,249	6,408	6,452
高齢化率	30.5%	30.8%	30.9%	31.0%	31.1%	31.2%	31.1%	31.1%	31.3%	31.4%
前期高齢者の割合	15.3%	14.9%	14.3%	13.9%	13.7%	13.4%	12.5%	11.7%	11.2%	11.1%
後期高齢者の割合	15.2%	15.8%	16.6%	17.1%	17.5%	17.8%	18.6%	19.4%	20.0%	20.3%

平成28・29年は、住民基本台帳(各年10月)による実績値、平成30年以降については、各年コーホート要因法による推計値。

(2) 要支援・要介護認定者数の推移及び推計

要支援・要介護認定者数の推計値をみると、継続的に増加していくことが見込まれます。要介護1は2014年(平成26年)に対して、2020年(平成32年)には63人の増加が見込まれます。65歳以上人口に占める要支援・要介護認定者の割合(認定率)も緩やかに上昇を続け、平成32年には17.7%に達すると推計されます。



認定者数は、過去の認定率の平均値及び町内認定者の増減要因の分析も加味して推計しました。

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	認定率
平成26年度	278	169	326	246	216	172	150	15.6
平成27年度	269	174	337	233	210	216	171	15.9
平成28年度	317	200	347	238	203	185	168	16.2
平成29年度	327	191	356	226	219	182	168	16.3
平成30年度	343	199	375	236	231	193	173	17.0
平成31年度	351	203	384	241	236	198	177	17.4
平成32年度	355	205	389	244	239	201	179	17.7
平成37年度	388	225	428	268	260	221	195	19.9

単位：人(認定率のみ%)

(3) 要支援・要介護認定者数の前回計画値との実績値との比較

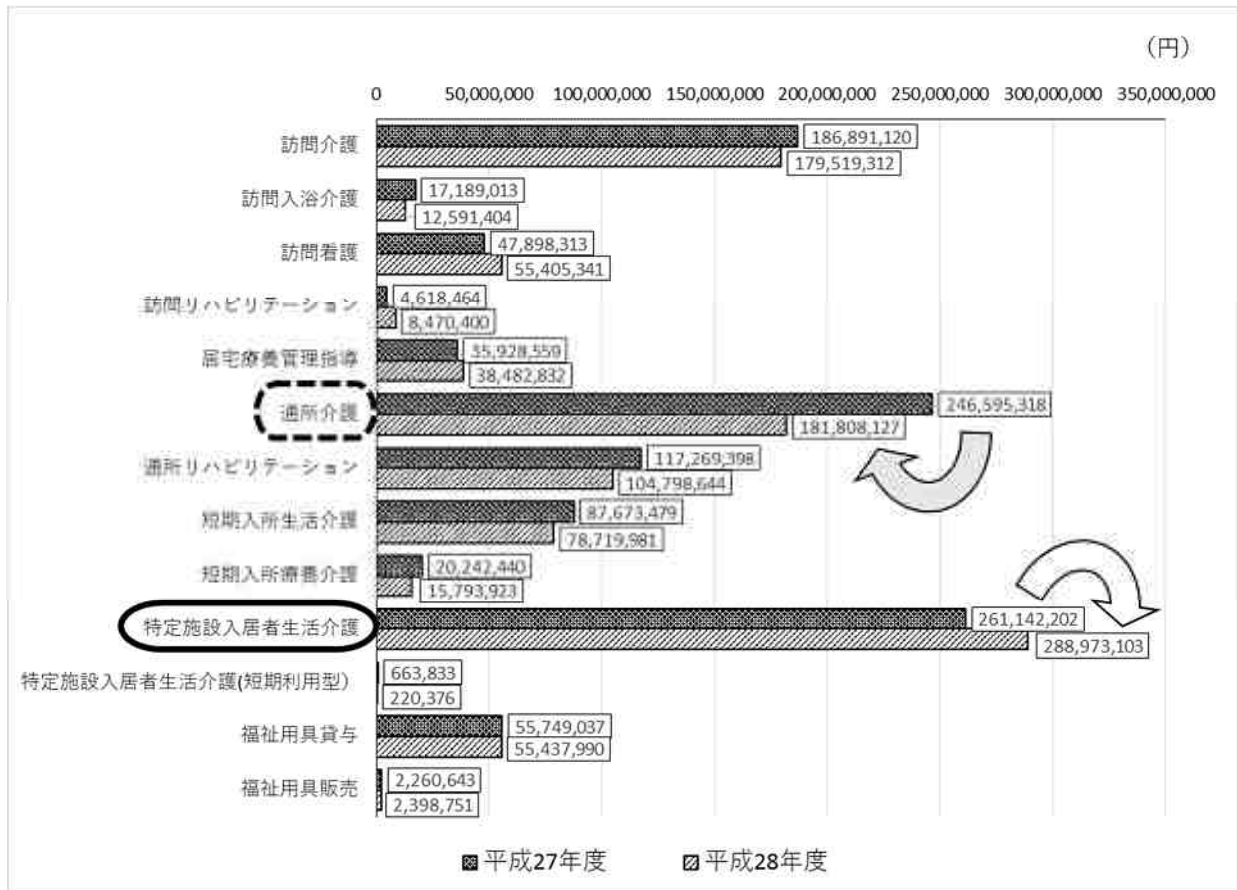
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	
要支援・要介護等認定者数		実績	1,610人	1,658人	1,697人
		計画	1,674人	1,730人	1,776人
		計画との差 (実績 - 計画)	-64人	-72人	-79人
介護度別	要支援 1	実績	269人	317人	337人
		計画	311人	326人	338人
		計画との差 (実績 - 計画)	-42人	-9人	-1人
	要支援 2	実績	174人	200人	194人
		計画	186人	191人	195人
		計画との差 (実績 - 計画)	-12人	9人	-1人
	要介護 1	実績	337人	347人	361人
		計画	350人	360人	368人
		計画との差 (実績 - 計画)	-13人	-13人	-7人
	要介護 2	実績	233人	238人	230人
		計画	261人	269人	275人
		計画との差 (実績 - 計画)	-28人	-31人	-45人
	要介護 3	実績	210人	203人	225人
		計画	227人	235人	240人
		計画との差 (実績 - 計画)	-17人	-32人	-25人
	要介護 4	実績	216人	185人	182人
		計画	181人	187人	192人
		計画との差 (実績 - 計画)	35人	-2人	-10人
	要介護 5	実績	171人	168人	168人
		計画	158人	163人	167人
		計画との差 (実績 - 計画)	13人	5人	1人

2015年度(平成27年度)~2017年度(平成29年度)の認定者数について、前期計画における計画値との差異を検証すると、全体的に計画の想定よりも認定者が大幅に少なくなっている傾向がうかがえます。

2 給付費の推移から見た介護保険サービスの利用状況

(1) 介護給付サービスの利用状況

1) 居宅サービス

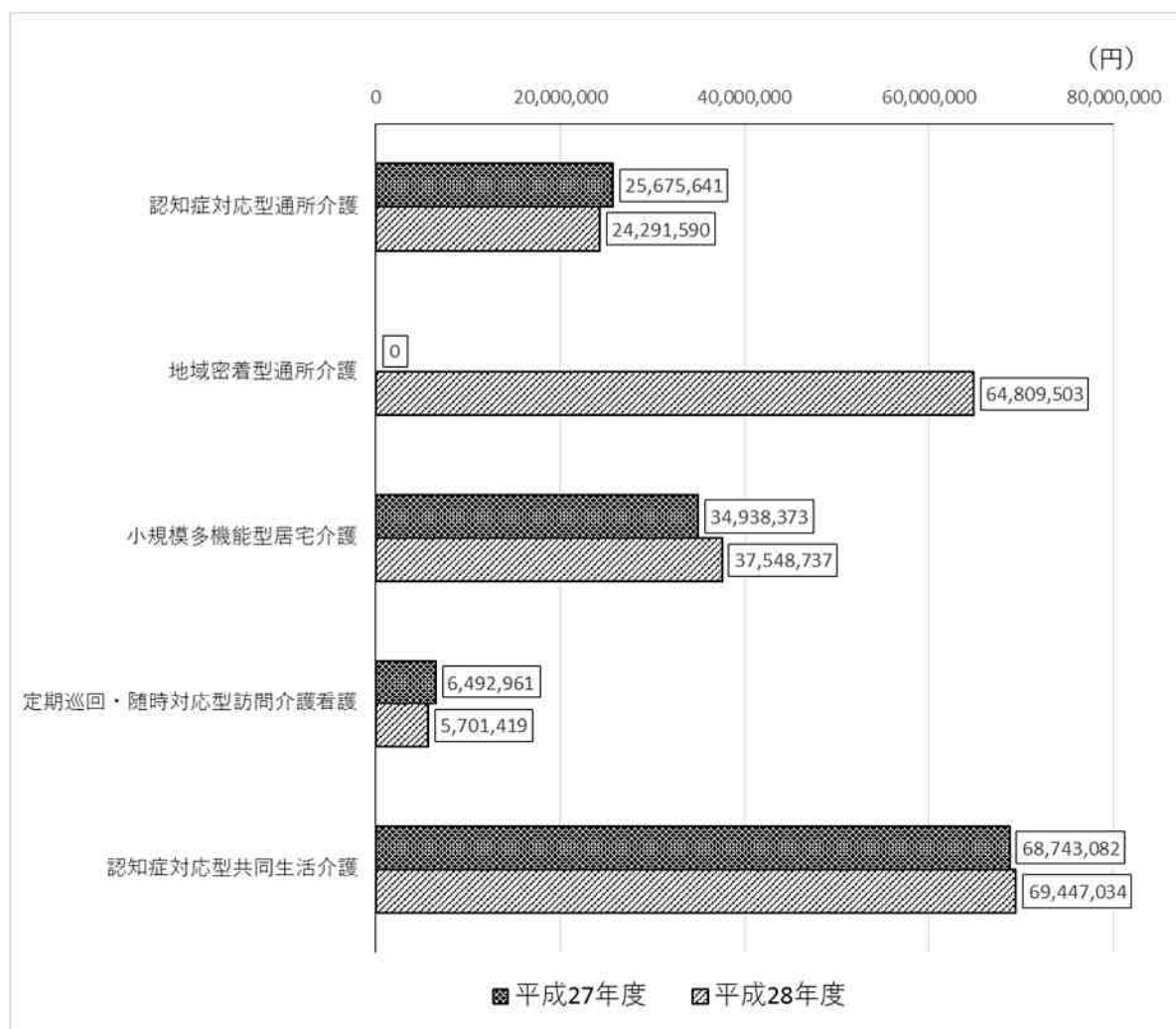


介護給付サービスのうち、居宅サービスについて給付費の推移を見てみると、多くのサービスは、2015年度（平成27年度）～2016年度（平成28年度）にかけて大きな変化はありませんでした。

なお、通所介護の給付費が大幅に減少しているのは、定員19人未満の通所介護が2016年（平成28年）4月1日より地域密着型通所介護に移行されたためです。

一方、特定施設入居者生活介護については給付費が大きく増加しています。

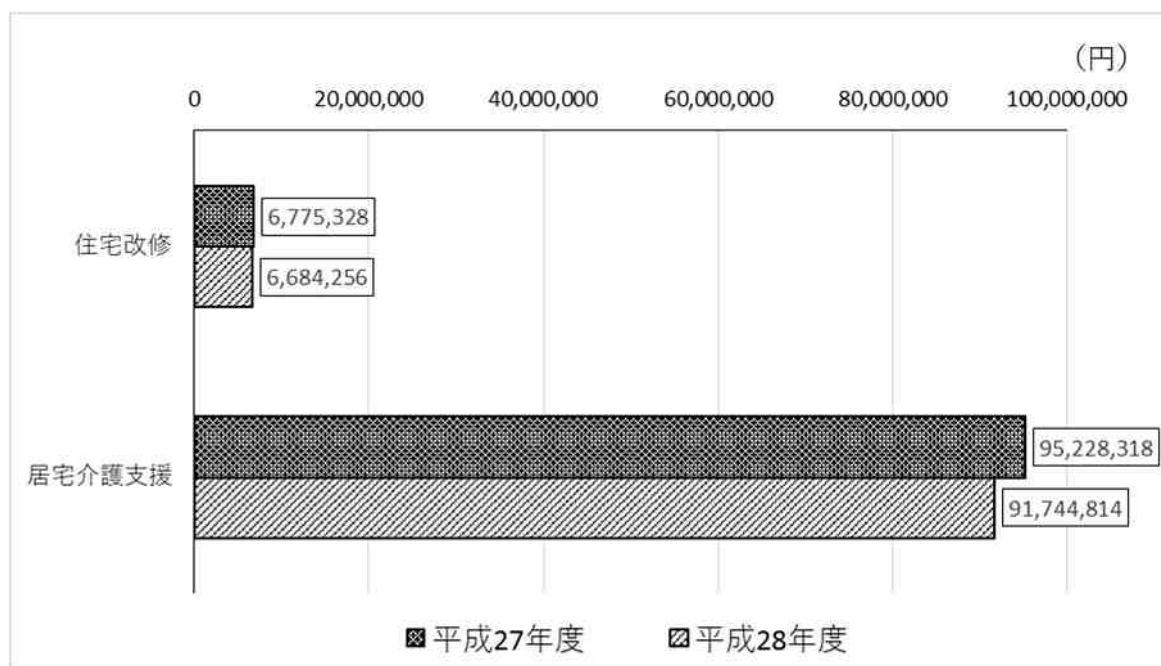
2) 地域密着型サービス



介護給付サービスのうち、地域密着型サービスについて給付費の推移を見ると、小規模多機能型居宅介護の利用がやや増加している他は、大きな変化は見られません。

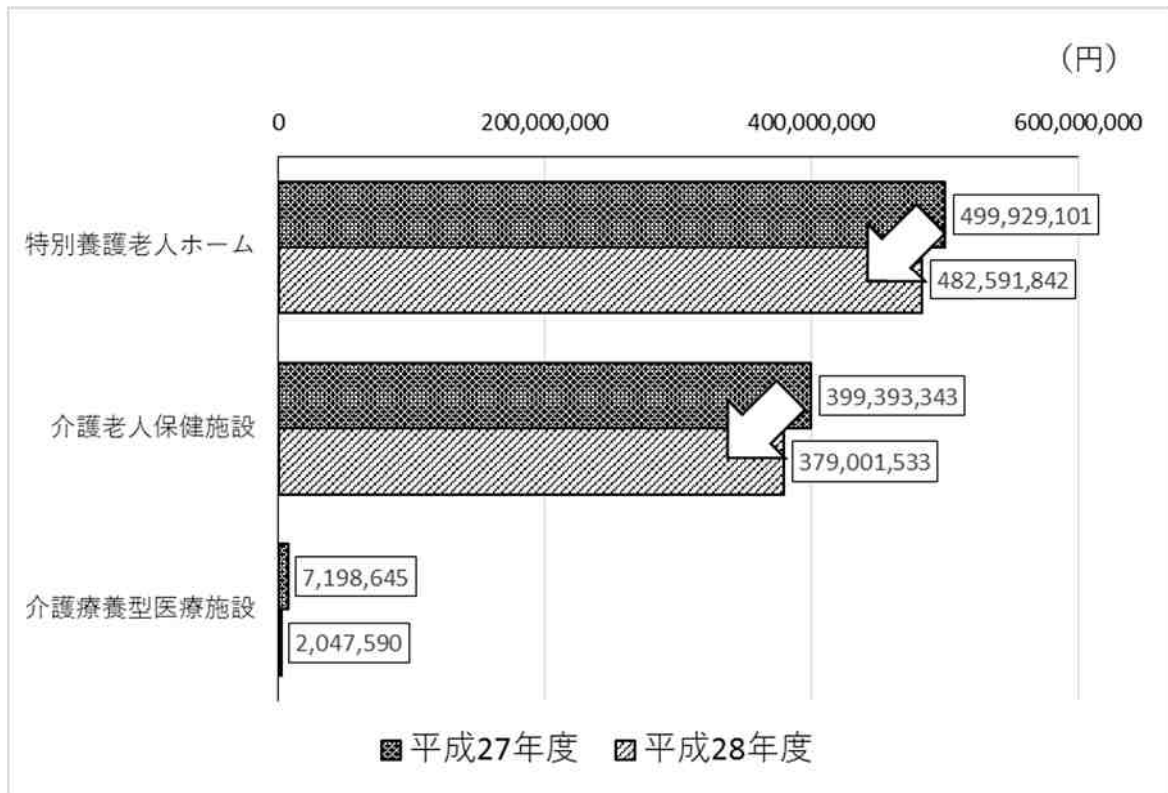
地域密着型通所介護の給付費が大きく伸びているのは、2016年（平成28年）4月1日から、通所介護事業所のうち19人未満の事業所については「地域密着型通所介護事業所」となったことによるものです。

3) その他サービス



介護給付サービスのうち、その他サービスについて給付費の推移を見ると、住宅改修、居宅介護支援については、ともに2015年度（平成27年度）～2016年度（平成28年度）の給付費については住宅改修は大きな変化は見られませんが、居宅介護支援についてはやや減少しています。

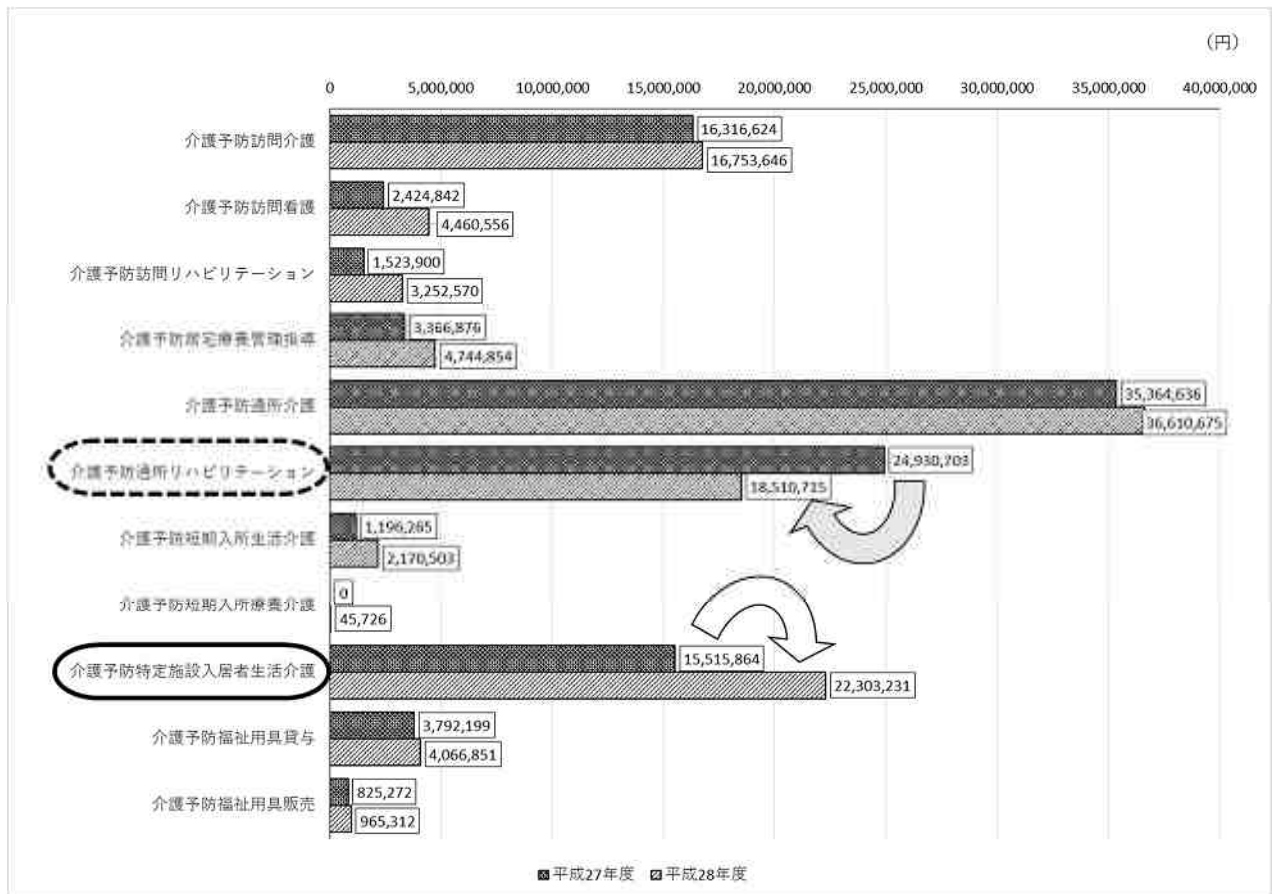
4) 施設サービス



介護給付サービスのうち、施設サービスについて給付費の推移を見ると、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護療養型医療施設のいずれも、給付費がやや減少しています。

(2) 予防給付サービスの利用状況

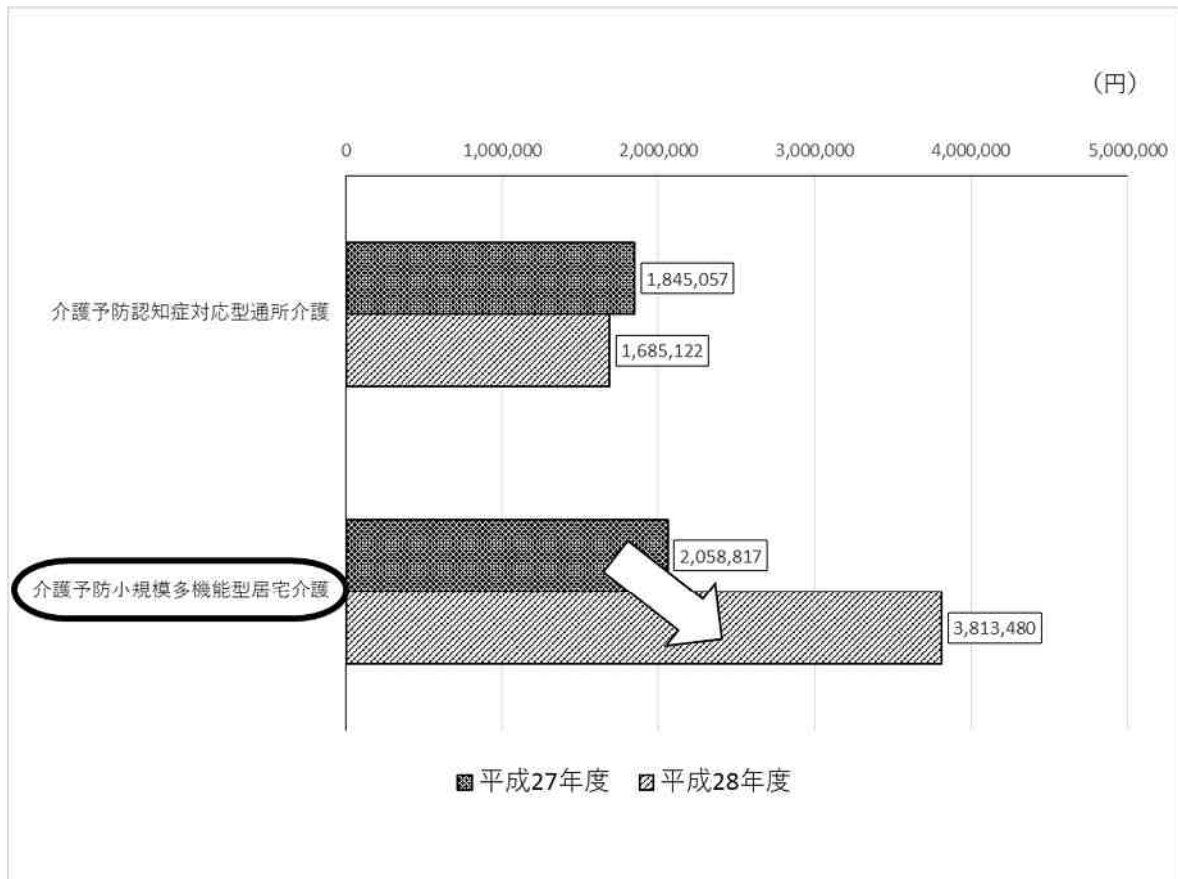
1) 介護予防サービス



予防給付サービスのうち、介護予防サービスについて給付費の推移を見ると、全般的に給付費が増加傾向にあります。特に介護予防特定施設入居者生活介護の給付費の伸びが大きくなっています。

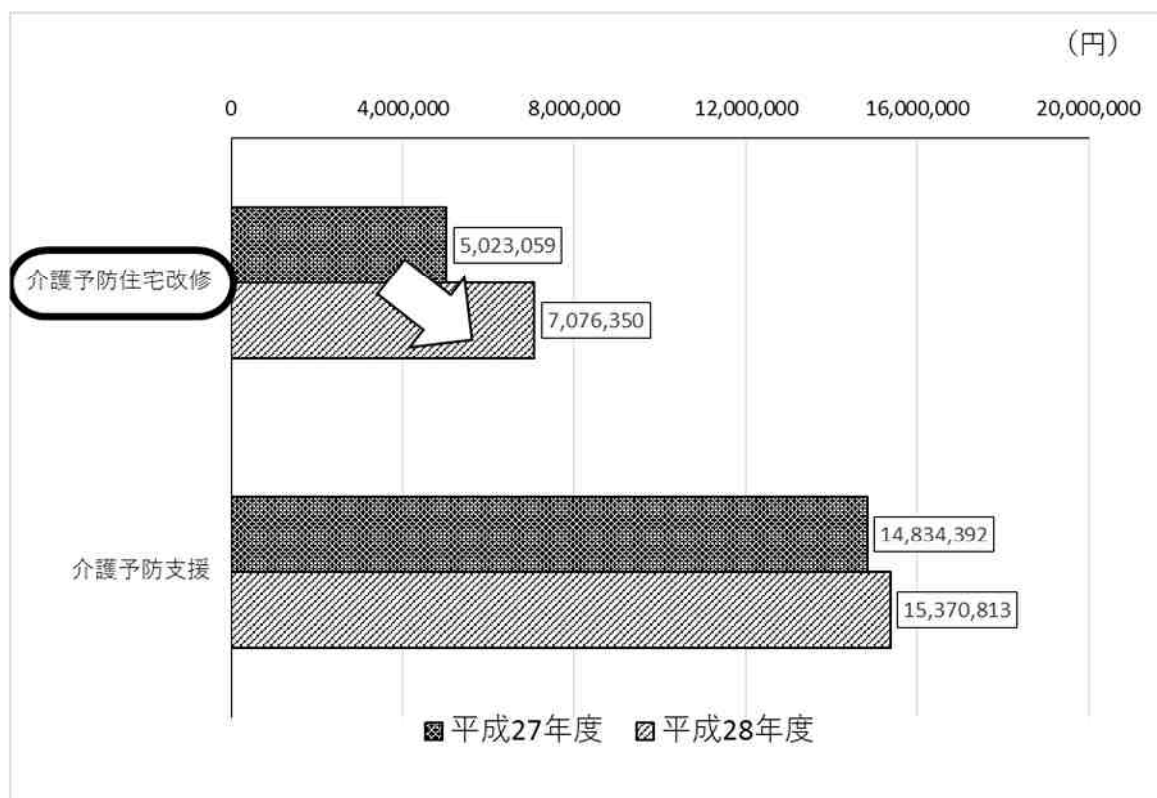
一方、介護予防通所リハビリテーションの給付費は大きく減っています。

2) 地域密着型サービス



予防給付サービスのうち、地域密着型サービスについて給付費の推移を見ると、介護予防小規模多機能型居宅介護の給付費が大きく伸びています。一方、介護予防認知症対応型通所介護の給付費はやや減少しています。

3) その他サービス



予防給付サービスのうち、その他サービスについて給付費の推移を見ると、介護予防住宅改修、介護予防支援ともに増加しており、特に、介護予防住宅改修は、2015年度（平成27年度）～2016年度（平成28年度）にかけて大きく増加しています。

3 アンケート調査結果のポイント

(1) 調査の概要

調査の目的

本調査は、第7期 葉山町高齢者福祉計画 介護保険事業計画策定の重要な基礎資料として、町民のニーズを図ることを目的とし実施しました。

調査の設計

調査種別	調査対象	抽出方法	調査時期
一般高齢者	2017年(平成29年)1月1日時点で、要支援・要介護認定を受けていない高齢者 8,628名中1,500名を無作為抽出	無作為抽出	2017年(平成29年) 1月～2月
要支援・要介護認定者	2017年(平成29年)1月1日時点で、要支援・要介護認定を受けている65歳以上高齢者 1,519名(住所地特例を除く)	悉皆調査 (全員)	2017年(平成29年) 2月～3月

調査対象者に対して調査票を郵送配布し、郵送で回収することにより調査を行いました。

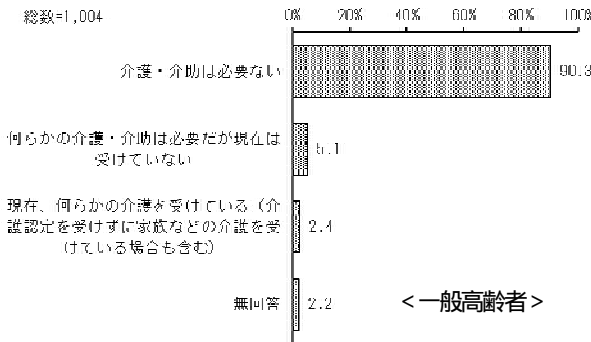
回収結果

調査種別	配布数	有効回収数	有効回収率
一般高齢者	1,500票	1,004票	66.9%
要支援・要介護認定者	1,519票	832票	54.8%

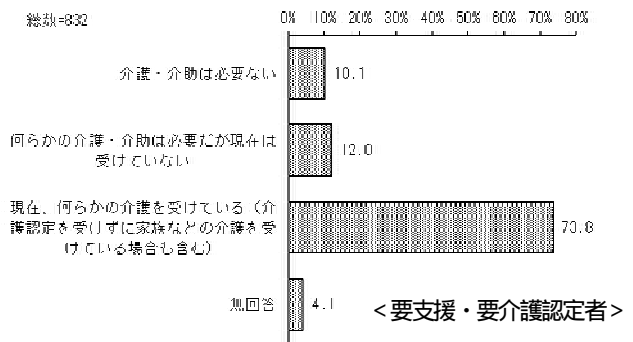
(2) 調査結果のポイント

「普段の生活で介護・介助が必要か」については、一般高齢者では、「介護・介助は必要ない」が最も多く90.3%でした。一方、要支援・要介護認定者（以降、「認定者」と表記）では、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が最も多く、73.8%でした。

問6. 普段の生活で介護・介助が必要か

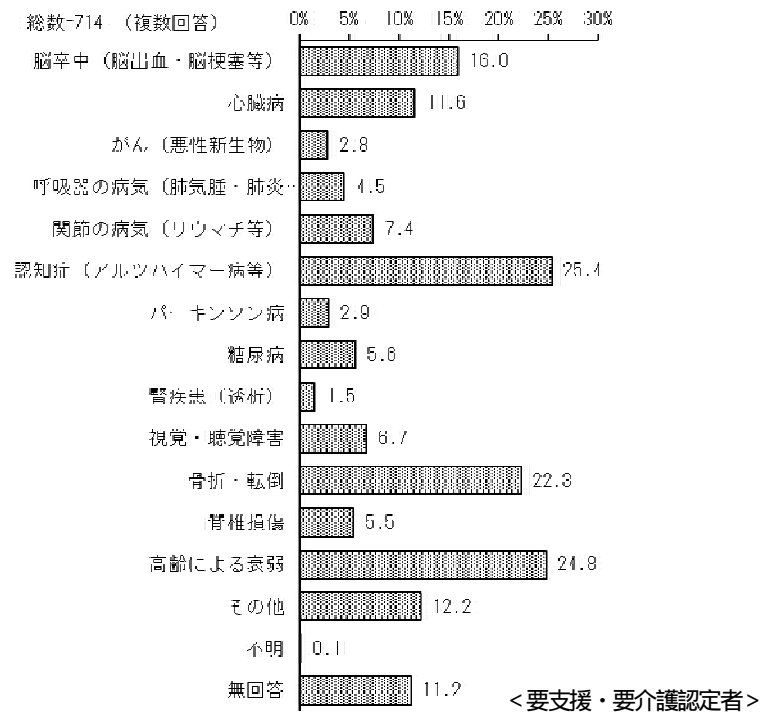


問6. 普段の生活で介護・介助が必要か



「介護・介助が必要になった主な原因」については、認定者では、認知症（アルツハイマー病）が25.4%と最も高く、以下、「高齢による衰弱」が24.8%、「骨折・転倒」が22.3%の順となっています。

問7. 介護・介助が必要になった主な原因



なお、介護・介助が必要になった理由について、年齢別に見ると、「介護・介助が必要になった主な原因」については、65～74歳の方々が一番多いのは脳卒中で、75～79歳の方々が一番多いのは骨折・転倒、そして、80歳になってからでは認知症である方が一番多くなっています。

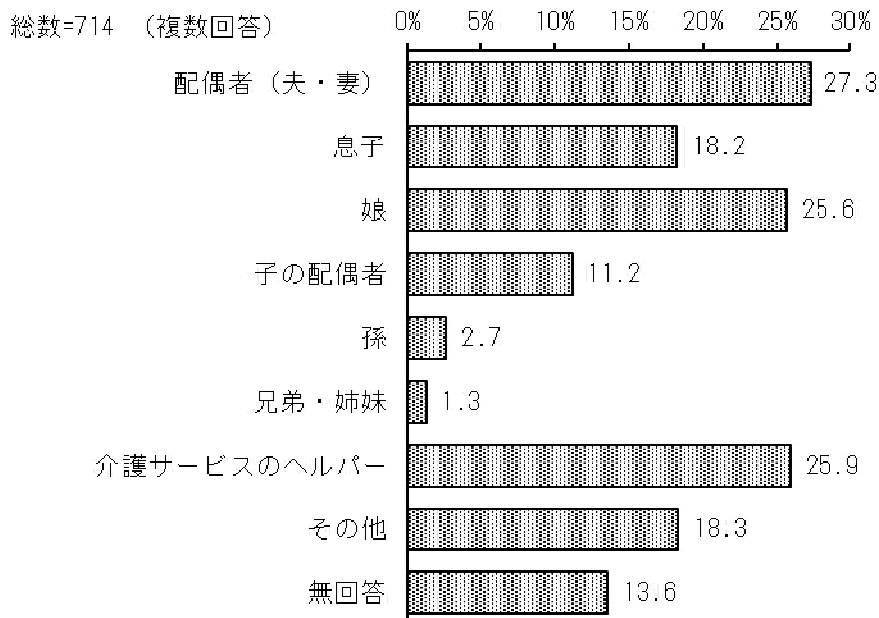
脳卒中等で認定を受けるリスクを減らすために、若いうちからの健康管理が重要であることが分かります。

	全体	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	がん（悪性新生物）	呼吸器の病気（肺炎腫・肺炎等）	関節の病気（リウマチ等）	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	糖尿病	腎疾患（透析）	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明	無回答	
全体	714 100.0	114 16.0	83 11.6	20 2.8	32 4.5	53 7.4	181 25.4	21 2.9	40 5.6	11 1.5	48 6.7	159 22.3	39 5.5	177 24.8	87 12.2	1 0.1	80 11.2	
性別	男	216 100.0	46 21.3	31 14.4	13 6.0	14 6.5	6 2.8	55 25.5	9 4.2	17 7.9	8 3.7	17 7.9	22 10.2	17 7.9	55 25.5	30 13.9	- 7.9	
	女	477 100.0	62 13.0	51 10.7	7 1.5	17 3.6	47 9.9	120 25.2	12 2.5	21 4.4	3 0.6	28 5.9	132 27.7	22 4.6	115 24.1	53 11.1	1 0.2	63 13.2
	無回答	21 100.0	6 28.6	1 4.8	- -	1 4.8	- -	6 28.6	- 9.5	2 -	- -	3 14.3	5 23.8	- -	7 33.3	4 19.0	- -	- -
年齢	65歳～69歳	20 100.0	5 25.0	3 15.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	3 15.0	- -	1 5.0	1 5.0	1 5.0	2 10.0	1 5.0	2 10.0	3 15.0	5 25.0	
	70歳～74歳	51 100.0	16 31.4	7 13.7	- -	2 3.9	5 9.8	11 21.6	3 5.9	4 7.8	1 2.0	5 9.8	5 9.8	4 7.8	- -	11 21.6	- 9.8	
	75歳～79歳	82 100.0	16 19.5	7 8.5	4 4.9	4 4.9	9 11.0	16 19.5	7 8.5	6 7.3	2 2.4	6 7.3	19 23.2	6 7.3	4 4.9	12 14.6	- 4.9	
	80歳～84歳	129 100.0	25 19.4	17 13.2	6 4.7	8 6.2	14 10.9	37 28.7	4 3.1	3 2.3	3 2.3	2 1.6	25 19.4	11 8.5	17 13.2	18 14.0	- 11.6	
	85歳～89歳	185 100.0	24 13.0	24 13.0	7 3.8	7 3.8	17 9.2	53 28.6	5 2.7	15 8.1	2 1.1	2 7.6	14 22.7	9 4.9	49 26.5	17 9.2	- 13.0	
	90歳～94歳	155 100.0	17 11.0	19 12.3	2 1.3	5 3.2	7 4.5	38 24.5	2 1.3	5 3.2	1 0.6	8 5.2	40 25.8	7 4.5	62 40.0	11 7.1	- 12.3	
	95歳以上	70 100.0	5 7.1	5 7.1	- -	4 5.7	- -	16 22.9	- -	4 5.7	1 1.4	9 12.9	21 30.0	- -	35 50.0	11 15.7	- 11.4	
	40歳～64歳	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	無回答	22 100.0	6 27.3	1 4.5	- -	1 4.5	- -	7 31.8	- -	2 9.1	- -	3 13.6	6 27.3	- -	8 36.4	4 18.2	- -	- -

上段：集計値、下段：構成比

「主な介護、介助者」については、認定者では、「配偶者(夫・妻)」が最も多く27.3%、次いで「介護サービスのヘルパー」が25.9%、「娘」が25.6%の順となっています。

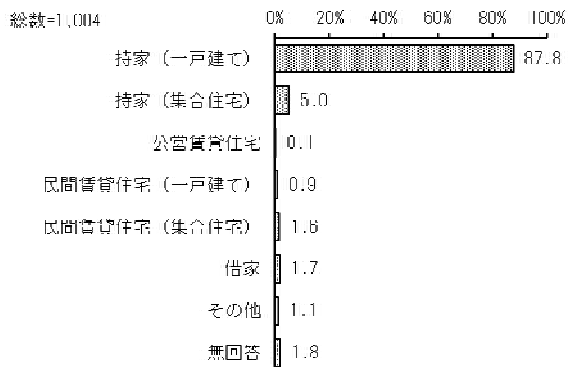
問8. 主な介護、介助者



<要支援・要介護認定者>

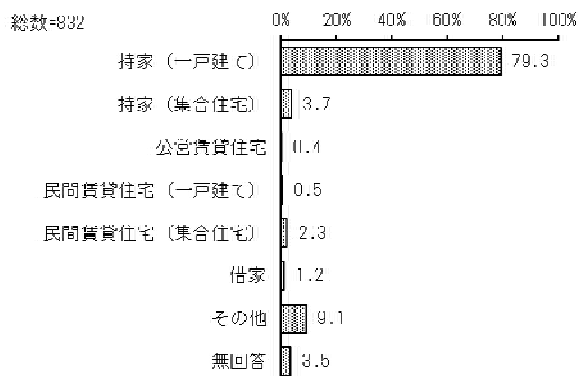
住居形態については、一般高齢者では、持ち家(一戸建て)が最も多く87.8%となっています。認定者でも、持ち家(一戸建て)が最も多く79.3%となっています。

問10. 住居形態



<一般高齢者>

問10. 住居形態

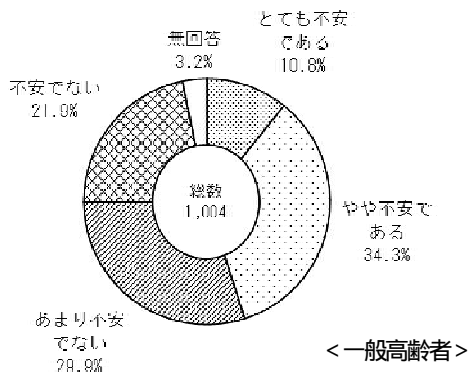


<要支援・要介護認定者>

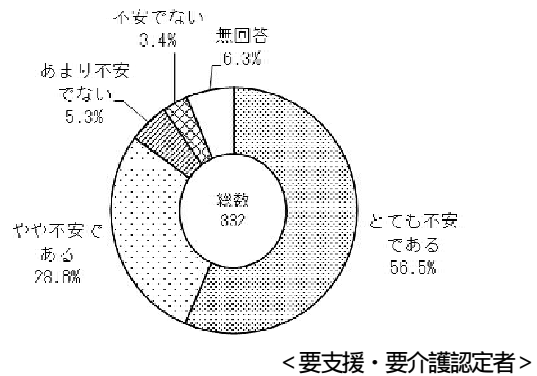
「転倒に対する不安」について、一般高齢者では、「とても不安である」「やや不安である」が合わせて45.1%で、およそ半分近くの方が、元気であっても転倒に対する不安を持っているという結果となっています。

認定者では、「とても不安である」、「やや不安である」と回答した方は合わせて85.1%となっています。認定者では、およそ9割近くの方が転倒に不安を感じていることが分かります。

問15. 転倒に対する不安

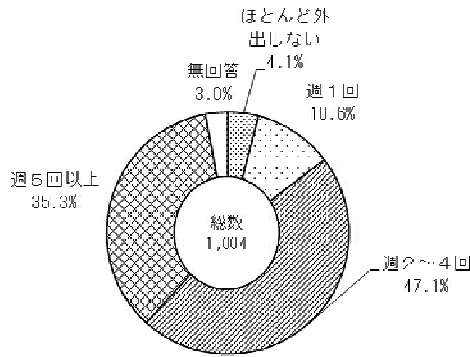


問15. 転倒に対する不安



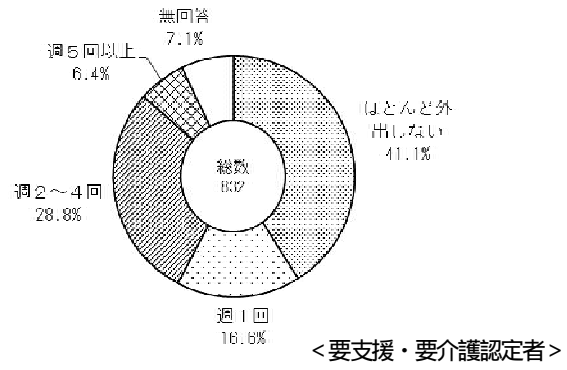
「週に1回以上外出するか」については、一般高齢者では、「週2～4回」が最も多く47.1%となっています。認定者では、およそ4割の方が「ほとんど外出しない」と回答しています。認定者は外出をする機会が少ない傾向にあることが分かります。

問16. 週に1回以上外出するか



<一般高齢者>

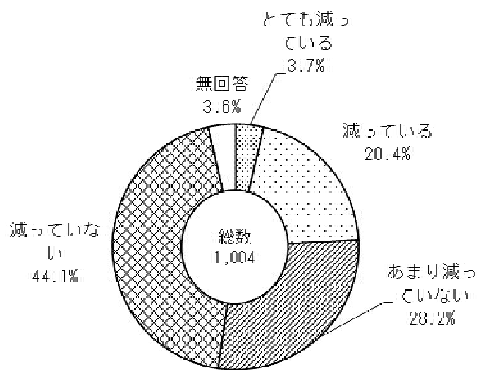
問16. 週に1回以上外出するか



<要支援・要介護認定者>

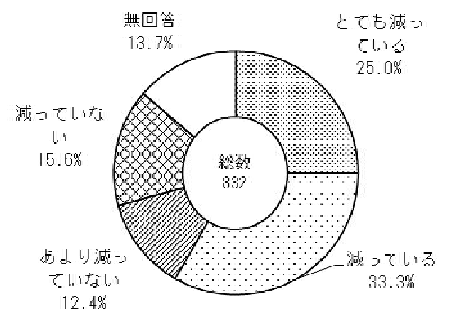
「去年と比べて外出回数が減っているか」については、一般高齢者では、「減っていない」「あまり減っていない」が合わせて72.3%となっています。一方、認定者ではおよそ6割の方が「とても減っている」または「減っている」と回答しています。

問20. 昨年と比べて外出回数が減っているか



<一般高齢者>

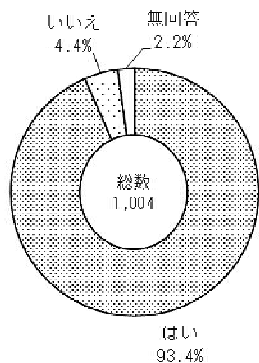
問20. 昨年と比べて外出回数が減っているか



<要支援・要介護認定者>

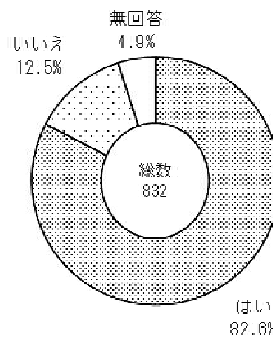
「歯磨きを毎日しているか」については、一般高齢者では、「はい」が93.4%、「いいえ」が4.4%となっています。認定者では、「はい」が82.6%、「いいえ」が12.5%となっています。

問28. 歯磨きを毎日しているか



<一般高齢者>

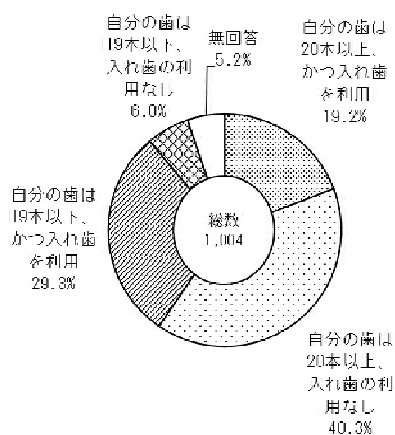
問28. 歯磨きを毎日しているか



<要支援・要介護認定者>

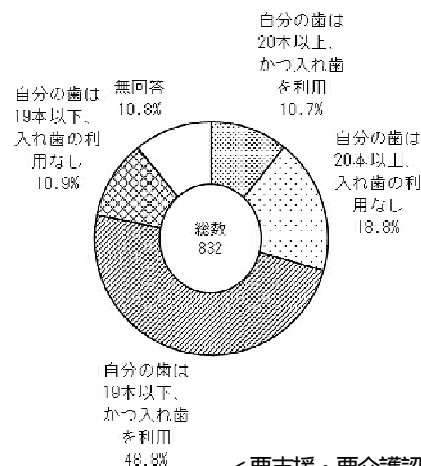
「歯の数と入れ歯の利用状況」については、一般高齢者では、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が最も多く40.3%となっています。認定者では、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が最も多く48.8%となっています。自分の歯が20本以上ある方は、一般高齢者ではおよそ6割、認定者ではおよそ3割となっています。

問29. 歯の数と入れ歯の利用状況



<一般高齢者>

問29. 歯の数と入れ歯の利用状況

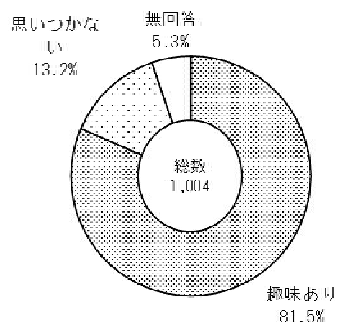


<要支援・要介護認定者>

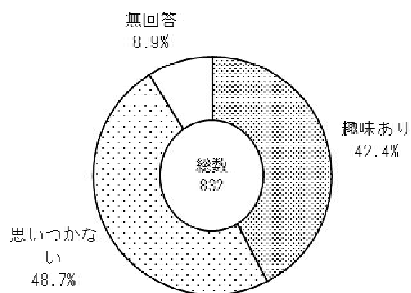
「趣味の有無」については、一般高齢者では、趣味があると回答した方は81.5%、一方、認定者では約半分の 42.4%となっています。認定者は、趣味を持たなくなる傾向があることがみてとれます。

問50. 趣味の有無

問50. 趣味の有無



<一般高齢者>

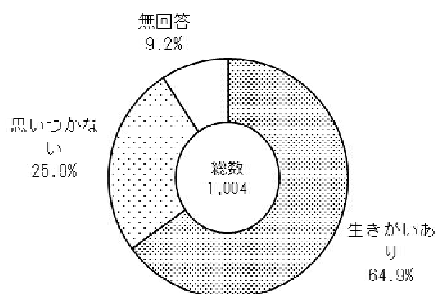


<要支援・要介護認定者>

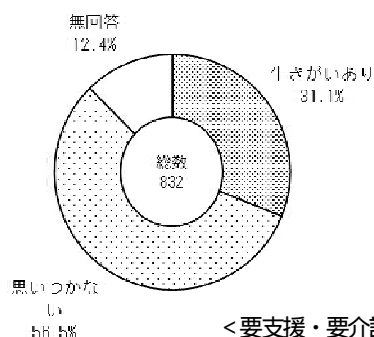
「生きがいの有無」については、「生きがいあり」と回答した方が一般高齢者では64.9%、認定者では31.1%となっています。認定者では生きがいをもっている方が3割と低く、一般高齢者の半分以下になっていることが分かります。

問51. 生きがいの有無

問51. 生きがいの有無



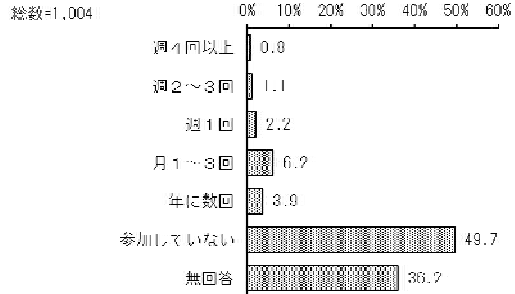
<一般高齢者>



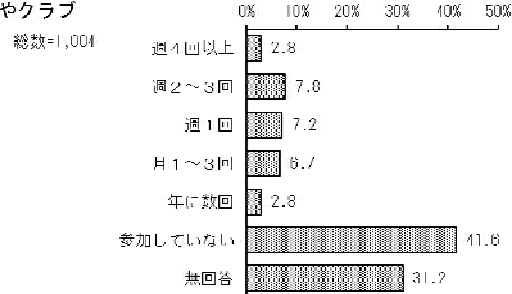
<要支援・要介護認定者>

「地域での活動」については、一般高齢者では、すべての活動において「参加していない」が多く、4～5割となっています。「趣味関係のグループ」に「月1～3回」参加している方が14.5%、「町内会・自治会」に「年に数回」参加している方が10.9%、「収入のある仕事」を「週に4回以上」している方が9.3%となっています。

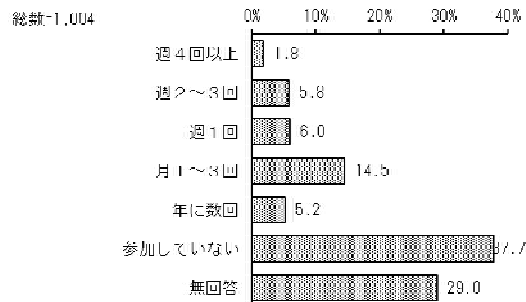
問52. 地域での活動①ボランティアのグループ



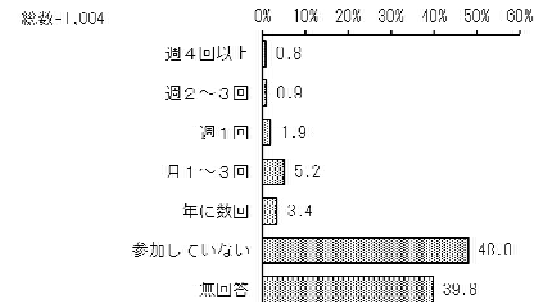
問52. 地域での活動②スポーツ関係のグループやクラブ



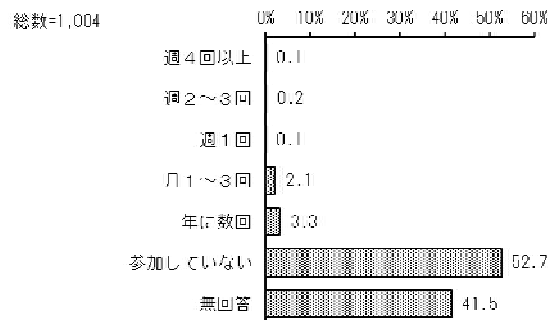
問52. 地域での活動③趣味関係のグループ



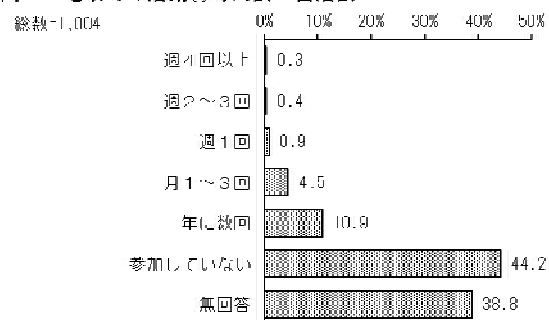
問52. 地域での活動④学習・教養サークル



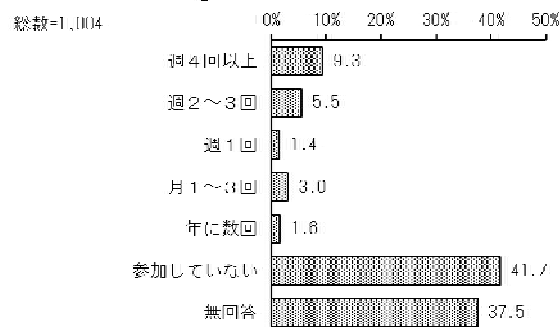
問52. 地域での活動⑤老人クラブ



問52. 地域での活動⑥町内会・自治会



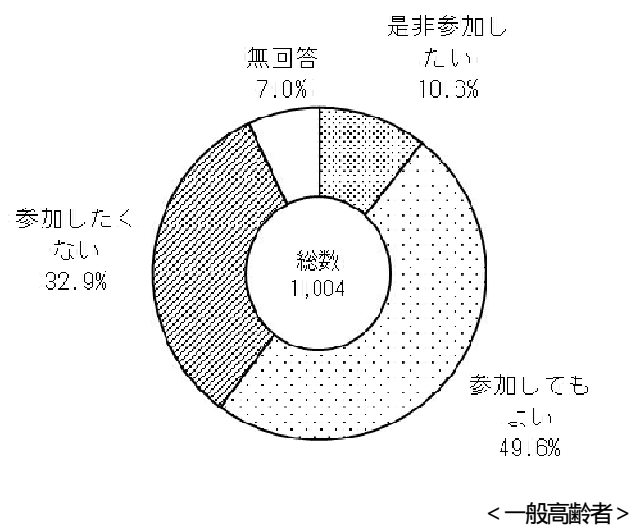
問52. 地域での活動⑦収入のある仕事



<本頁グラフはすべて一般高齢者>

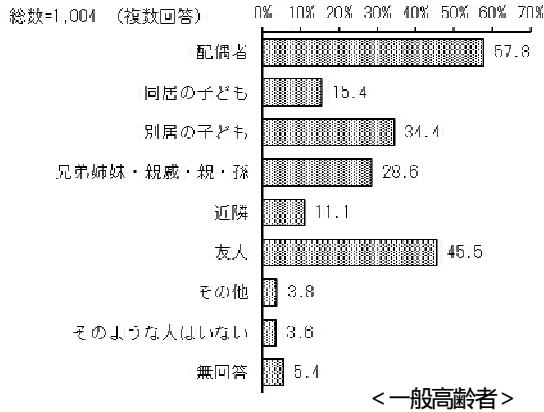
「健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向」については、一般高齢者では、「参加してもよい」と回答した方が 49.6%、「参加したくない」と回答した方が 32.9%、「是非参加したい」が 10.6%となっています。「参加してもよい」と「是非参加したい」を合わせると、6割の方が健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加する意向を持っていることが分かります。

問53. 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向

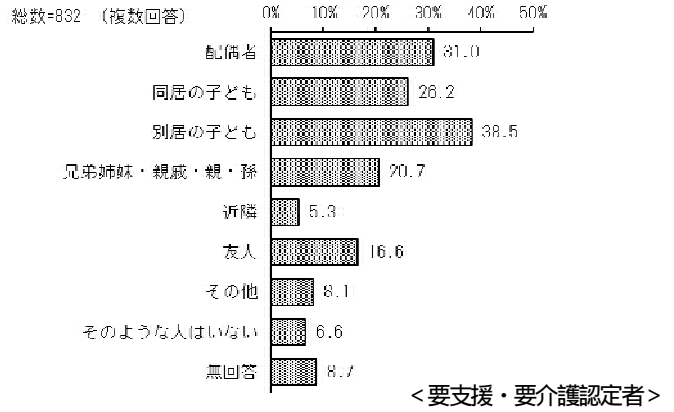


「心配事や愚痴を聞いてくれる人」について、一般高齢者では、配偶者が一番多く57.8%、次いで、「友人」が45.5%で、「そのような人はいない」は3.6%に留まっています。また、認定者でも「そのような人はいない」は6.6%と低く、認定の有無にかかわらず、多くの方が相談をする相手がいることが分かります。

問55. 心配事や愚痴を聞いてくれる人



問55. 心配事や愚痴を聞いてくれる人

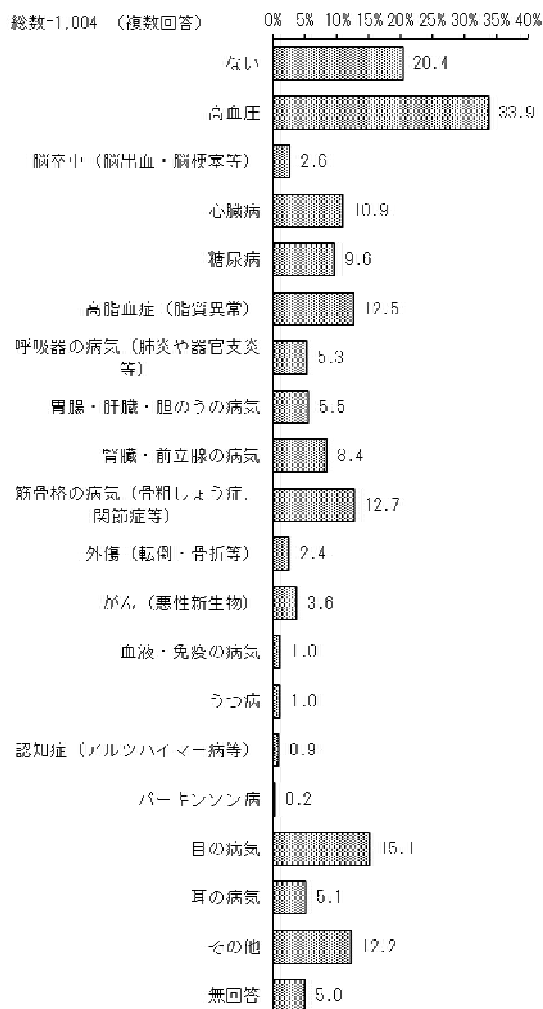


一般高齢者について、年齢別では、65～69歳の方では「友人」が53.7%となっており、前期高齢者においては配偶者に相談するのと同程度の割合の方が、「友人」に相談をしていることが分かります。

問55. 心配事や愚痴を聞いてくれる人 (一般高齢者) 【7つまでの複数回答】		全体	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
	全体	1,004	580	155	345	287	111	457	38	36	54
		100.0	57.8	15.4	34.4	28.6	11.1	45.5	3.8	3.6	5.4
性別	男	475	343	62	124	96	25	168	23	23	23
		100.0	72.2	13.1	26.1	20.2	5.3	35.4	4.8	4.8	4.8
	女	495	218	89	211	182	81	275	15	13	23
		100.0	44.0	18.0	42.6	36.8	16.4	55.6	3.0	2.6	4.6
	無回答	34	19	4	10	9	5	14	-	-	8
		100.0	55.9	11.8	29.4	26.5	14.7	41.2	-	-	23.5
年齢	65歳～69歳	257	158	38	95	99	35	138	5	13	12
		100.0	61.5	14.8	37.0	38.5	13.6	53.7	1.9	5.1	4.7
	70歳～74歳	260	164	36	70	65	19	127	11	7	13
		100.0	63.1	13.8	26.9	25.0	7.3	48.8	4.2	2.7	5.0
	75歳～79歳	226	131	36	83	62	28	111	7	9	11
		100.0	58.0	15.9	36.7	27.4	12.4	49.1	3.1	4.0	4.9
	80歳～84歳	140	76	18	49	32	16	50	11	2	7
		100.0	54.3	12.9	35.0	22.9	11.4	35.7	7.9	1.4	5.0
85歳～89歳	71	30	17	31	19	6	16	4	4	2	
	100.0	42.3	23.9	43.7	26.8	8.5	22.5	5.6	5.6	2.8	
90歳～94歳	14	2	3	6	2	3	2	-	1	1	
	100.0	14.3	21.4	42.9	14.3	21.4	14.3	-	7.1	7.1	
95歳以上	3	-	3	1	-	-	-	-	-	-	
	100.0	-	100.0	33.3	-	-	-	-	-	-	
	無回答	33	19	4	10	8	4	13	-	-	8
		100.0	57.6	12.1	30.3	24.2	12.1	39.4	-	-	24.2

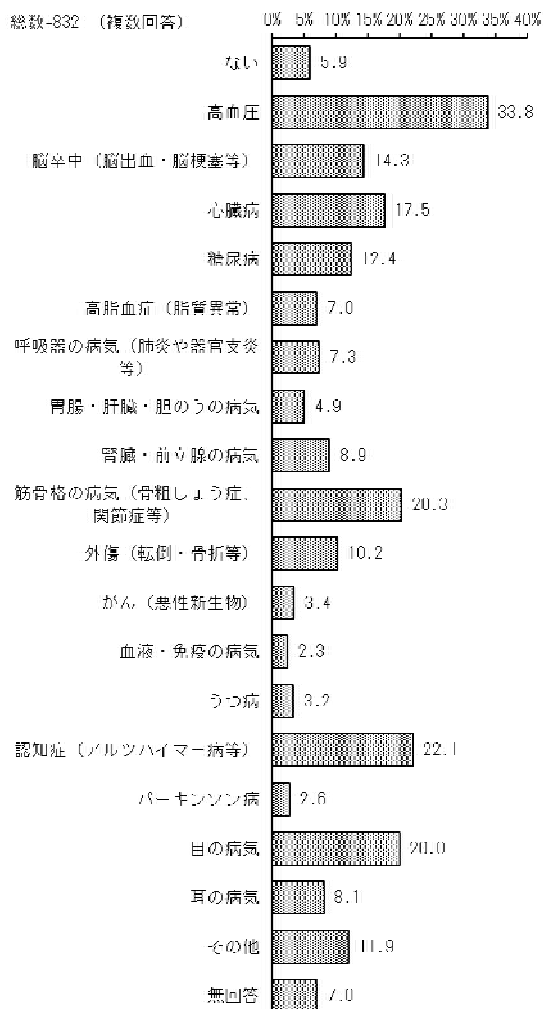
「現在治療中、または後遺症のある病気」については、一般高齢者では、「高血圧」が最も多く 33.9%、以下、「目の病気」が 15.1%、「筋骨格の病気」が 12.7%、「高脂血症」が 12.5%の順となっています。認定者では、「高血圧」が最も多く 33.8%、以下、「認知症」が 22.1%、「筋骨格の病気」が 20.3%、「目の病気」が 20.0%の順となっています。

問69. 現在治療中、または後遺症のある病気



<一般高齢者>

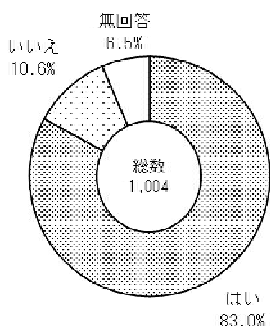
問69. 現在治療中、または後遺症のある病気



<要支援・要介護認定者>

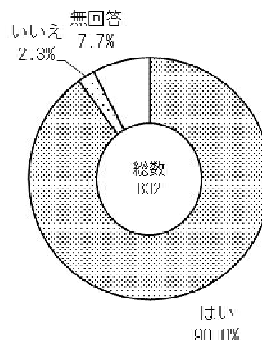
「かかりつけの医療機関の有無」について、「はい」(かかりつけの医療機関がある)と回答した方が、一般高齢者では83.0%、認定者では90.0%となっています。認定者では9割の方がかかりつけの医療機関をもっていることが分かります。

問70. かかりつけの医療機関の有無



<一般高齢者>

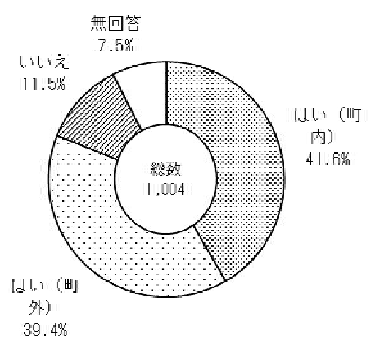
問70. かかりつけの医療機関の有無



<要支援・要介護認定者>

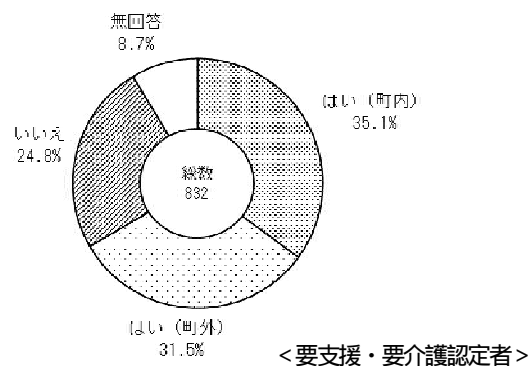
「かかりつけ歯科医の有無」については、一般高齢者では、かかりつけ歯科医がいる方は町内・町外合わせて81.0%となっています。一方、認定者では、かかりつけ歯科医がいる方は、町内・町外合わせて66.6%でした。一般高齢者の8割以上が、かかりつけ歯科医をもっていることが分かります。

問76. かかりつけ歯科医の有無



<一般高齢者>

問76. かかりつけ歯科医の有無

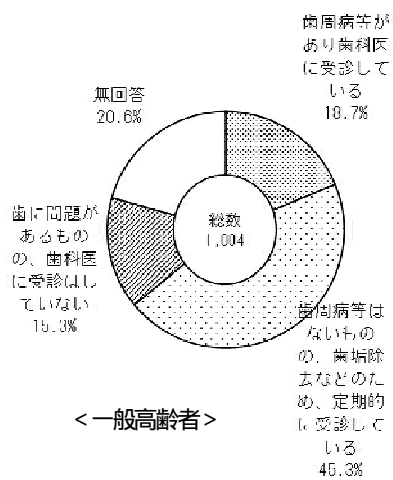


<要支援・要介護認定者>

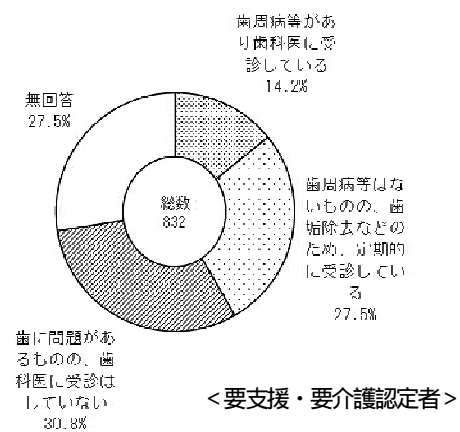
「歯科医への受診状況」について、「歯周病等はないものの、歯垢除去などのため、定期的に受診している」と回答した方は一般高齢者では45.3%なのに対し、認定者では27.5%となっています。

一方、「歯に問題があるものの、歯科医に受診はしていない」と回答した方は一般高齢者では15.3%なのに対し、認定者では30.8%と倍近くに増えていることがわかります。認定者は、口腔状態が悪くなる傾向があることが見て取れます。

問77. 歯科医への受診状況

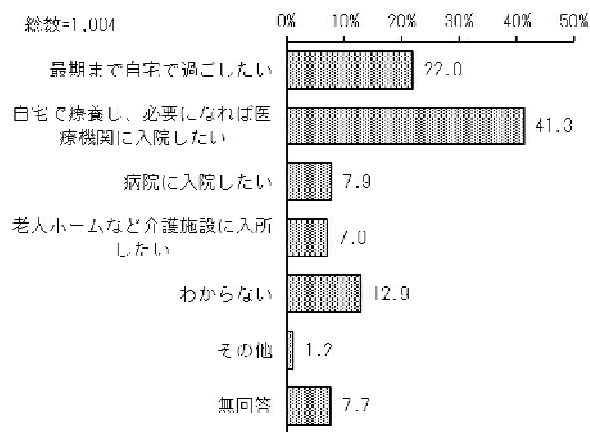


問77. 歯科医への受診状況



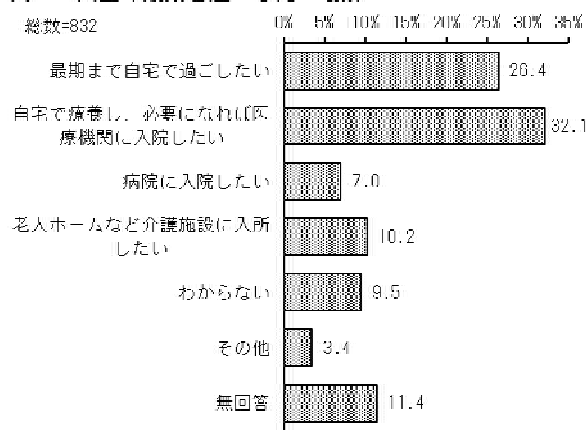
「人生の最期を過ごしたい場所」については、「最期まで自宅で過ごしたい」と「自宅で療養し、必要になれば医療機関に入院したい」という回答を合わせると、一般高齢者では 63.3%、認定者では 58.5%と最も多くなっています。認定の有無によらず、6割前後の方が可能な限り自宅で過ごしたいと希望していることが分かります。

問78. 人生の最期を過ごしたい場所



<一般高齢者>

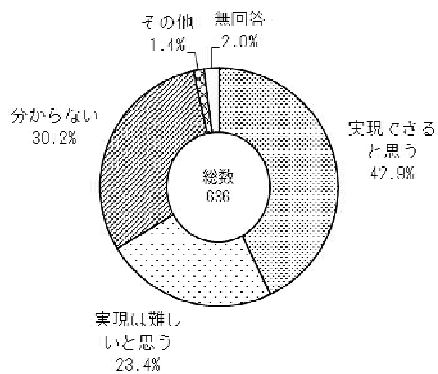
問78. 人生の最期を過ごしたい場所



<要支援・要介護認定者>

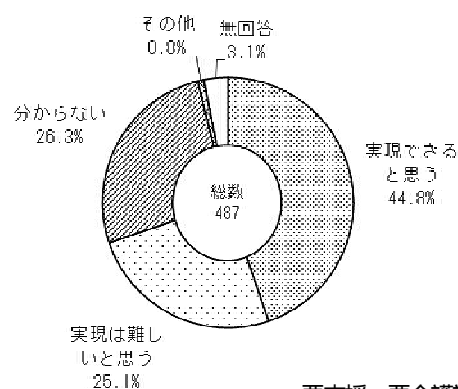
「希望する人生の最期を過ごしたい場所は実現できると思うか」については、一般高齢者では、「実現できる」と回答した方は 42.9%、「実現は難しい」と回答した方は 23.4%となっています。認定者では、「実現できる」と回答した方は 44.8%、「実現は難しいと思う」と回答した方は 25.1%でした。

問79. 希望する人生の最期を過ごしたい場所は実現できると思うか



<一般高齢者>

問79. 希望する人生の最期を過ごしたい場所は実現できると思うか



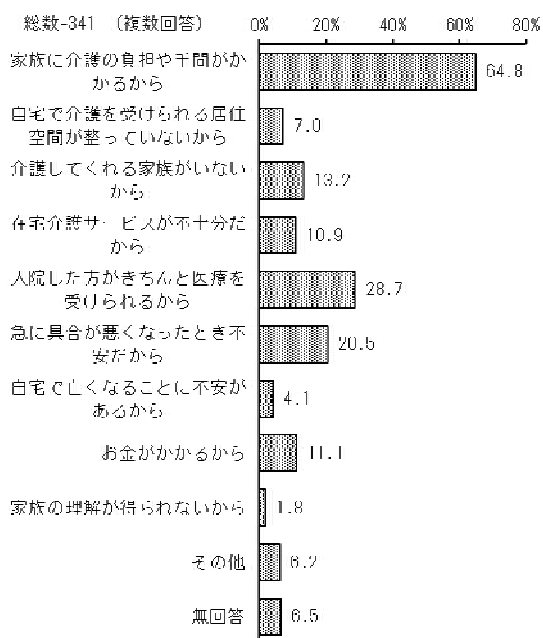
<要支援・要介護認定者>

希望する場所で人生の最期を過ごすことの実現が難しいと思うと回答した方に、その理由について伺ったところ、「家族に介護の負担や手間がかかるから」と回答した方が一般高齢者では 64.8%、認定者でも 57.2%と最も多くなっています。多くの方が家族に対して負担をかけると心配していることが分かります。

その他の理由として目立つところでは、「入院した方がきちんと医療を受けられるから」が、一般高齢者では 28.7%、認定者では 31.6%、また、「急に具合が悪くなったとき不安だから」が一般高齢者では 20.5%、認定者では 30.0%となっています。

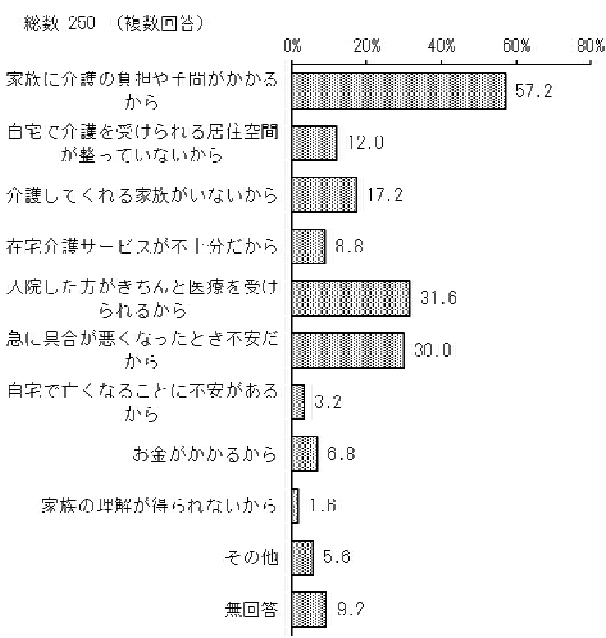
比較的元気な方々は、家族の負担がかかると考える方が多く、実際に認定を受け、サービス等を受けたことがあるような方々は、いざというとききちんと医療を受けられるか考える傾向がみられます。

問80. 実現が難しいと思う理由



<一般高齢者>

問80. 実現が難しいと思う理由



<要支援・要介護認定者>

4 在宅介護実態調査のポイント

(1) 調査の概要

調査の目的

本調査は、第7期 葉山町高齢者福祉計画 介護保険事業計画策定の重要な基礎資料として、主介護者の介護の実態と介護者支援のニーズを図ることを目的とし実施しました。

調査の設計

調査種別	調査対象	抽出方法	調査時期
要支援・要介護認定者	2017年(平成29年)6月1日時点で、要支援・要介護認定を受けている65歳以上高齢者 1,137名(住所地特例を除く)	悉皆調査 (全員)	2017年(平成29年) 6月～7月

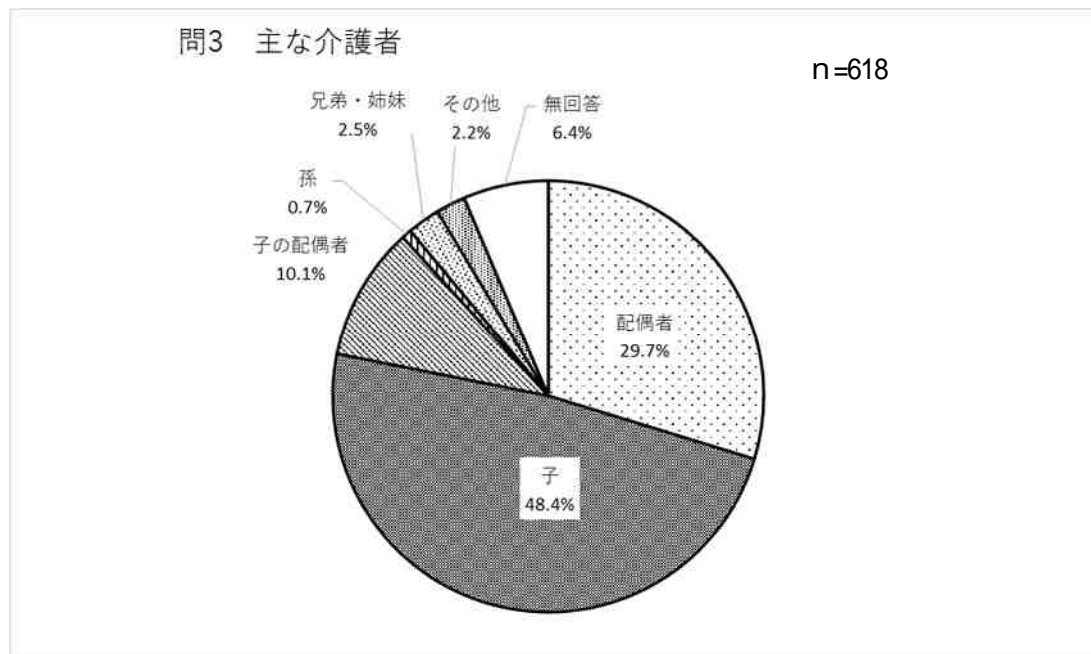
調査対象者に対して調査票を郵送配布し、郵送で回収することにより調査を行いました。

回収結果

調査種別	配布数	有効回収数	有効回収率
要支援・要介護認定者	1,137票	618票	54.4%

(2) 調査結果のポイント

主な介護者は、「子」が最も多く 48.4%、次いで、「配偶者」が 29.7%、以下、「子の配偶者」が 10.1%、「兄弟・姉妹」が 2.5%の順となっています。半数近い方が主に自分の子から介護を受けています。



なお、主な介護者について、男女別に見てみると、男性では「配偶者」が 51.6%と多くなっています。一方、女性では「子ども」が 58.1%と多くなっています。

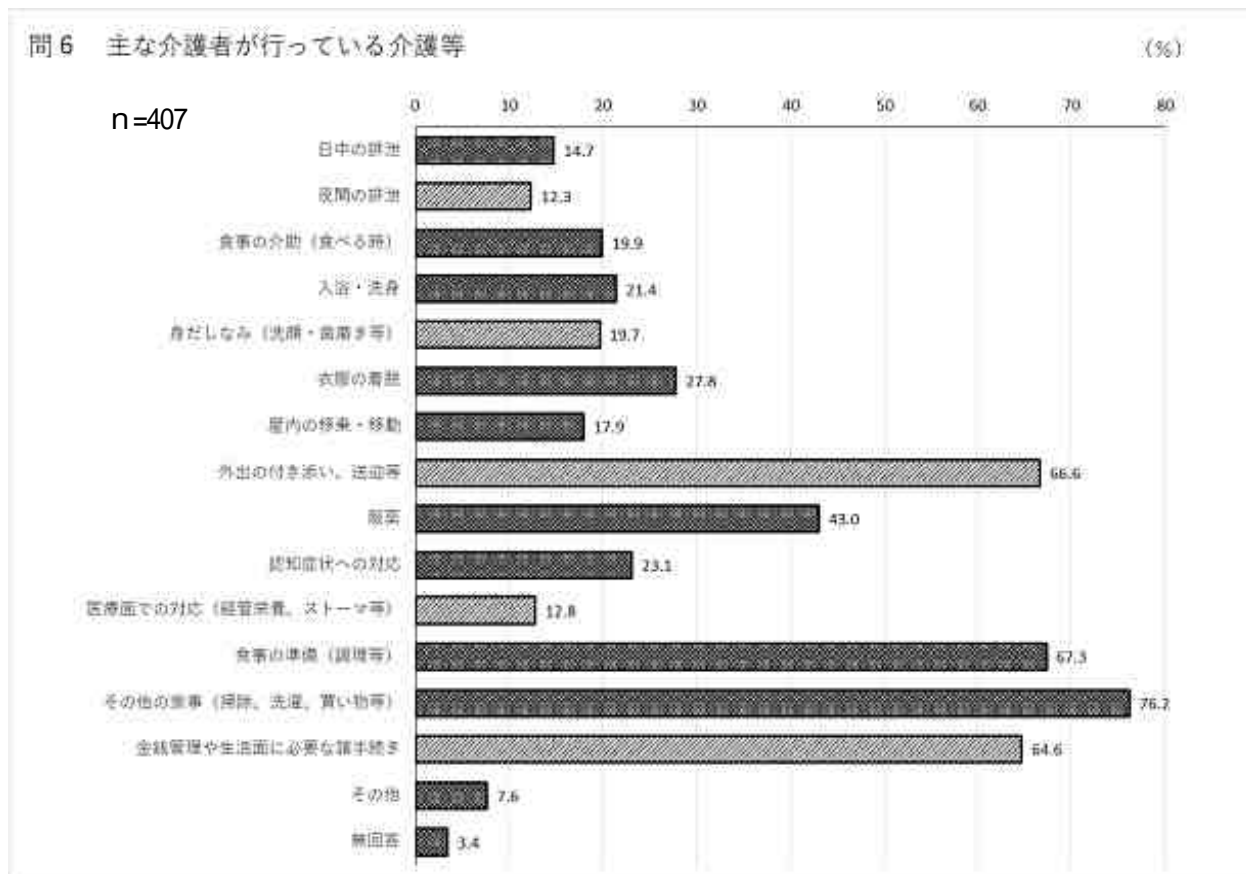
また、主な介護者について、年齢階級別に見てみると、79歳までは配偶者が多く、85歳以上になると子どもが多くなっていることがわかります。

問3. 主な介護者（性別・年齢階級別クロス）

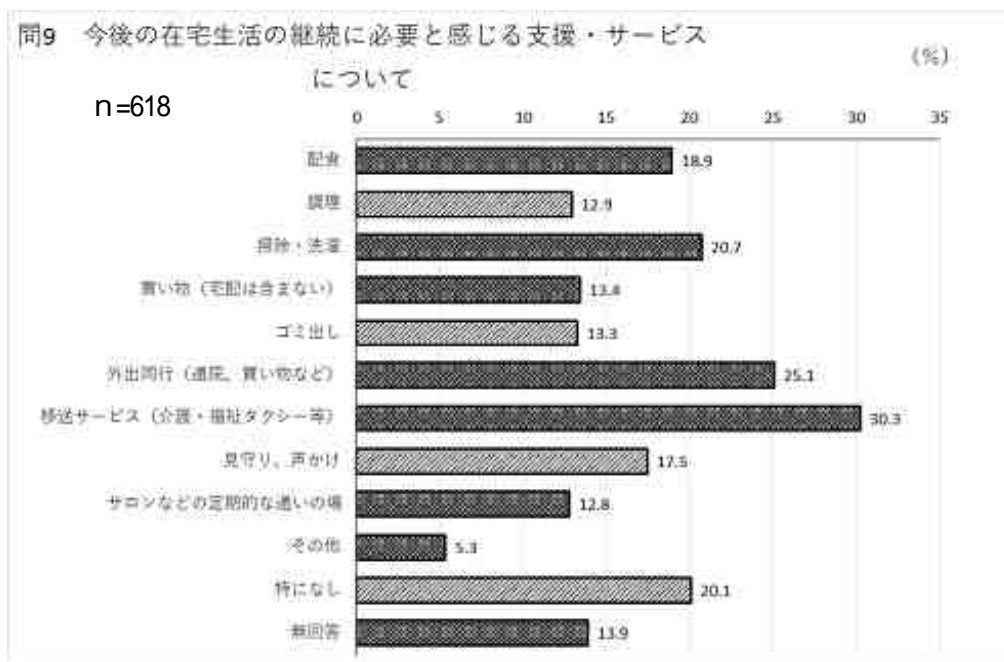
		全体	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他	無回答
全体		407 100.0	121 29.7	197 48.4	41 10.1	3 0.7	10 2.5	9 2.2	26 6.4
性別	男性	128 100.0	66 51.6	35 27.3	13 10.2	1 0.8	3 2.3	2 1.6	8 6.3
	女性	267 100.0	52 19.5	155 58.1	28 10.5	2 0.7	7 2.6	7 2.6	16 6.0
	無回答	12 100.0	3 25.0	7 58.3	- -	- -	- -	- -	2 16.7
年齢	65歳～69歳	10 100.0	6 60.0	2 20.0	1 10.0	- -	1 10.0	- -	- -
	70歳～74歳	31 100.0	19 61.3	6 19.4	1 3.2	- -	4 12.9	1 3.2	- -
	75歳～79歳	60 100.0	36 60.0	16 26.7	- -	- -	1 1.7	2 3.3	5 8.3
	80歳～84歳	65 100.0	25 38.5	25 38.5	7 10.8	1 1.5	2 3.1	- -	5 7.7
	85歳～89歳	105 100.0	22 21.0	64 61.0	13 12.4	1 1.0	- -	3 2.9	2 1.9
	90歳～94歳	86 100.0	9 10.5	56 65.1	12 14.0	1 1.2	2 2.3	1 1.2	5 5.8
	95歳以上	37 100.0	- -	21 56.8	7 18.9	- -	- -	2 5.4	7 18.9
	無回答	13 100.0	4 30.8	7 53.8	- -	- -	- -	- -	2 15.4

（上段：集計値、下段：構成比）

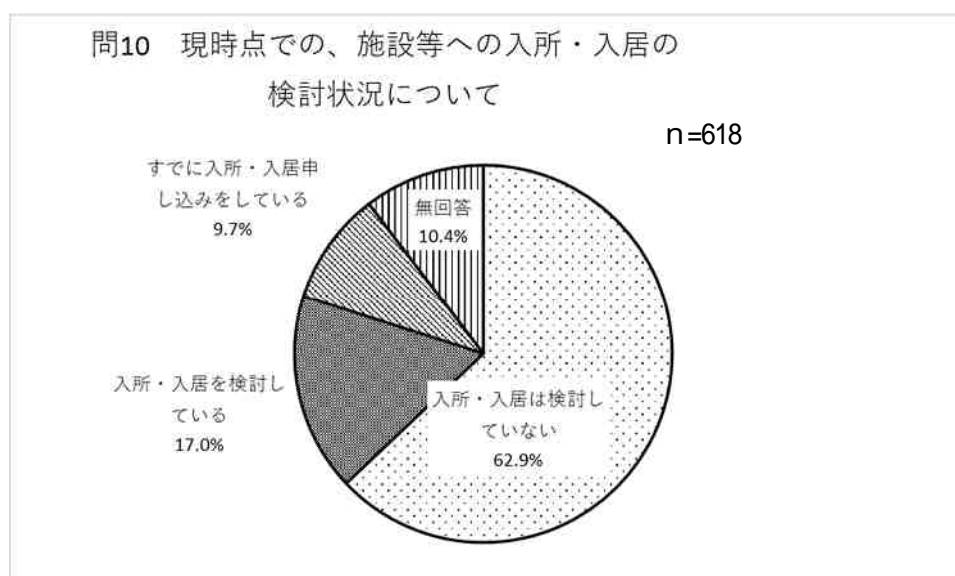
主な介護者が行っている介護等については、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が最も多く76.2%、次いで「食事の準備（調理等）」が67.3%、以下「外出の付き添い、送迎等」が66.6%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」64.6%の順となっています。



今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が最も多く30.3%、次いで、「外出同行(通院、買い物など)」が25.1%、以下、「掃除・洗濯」20.7%、「特になし」が20.1%の順となっています。



現時点での、施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が最も多く62.9%、「入所・入居を検討している」は17.0%、「すでに入所・入居申し込みをしている」は9.7%となっています。



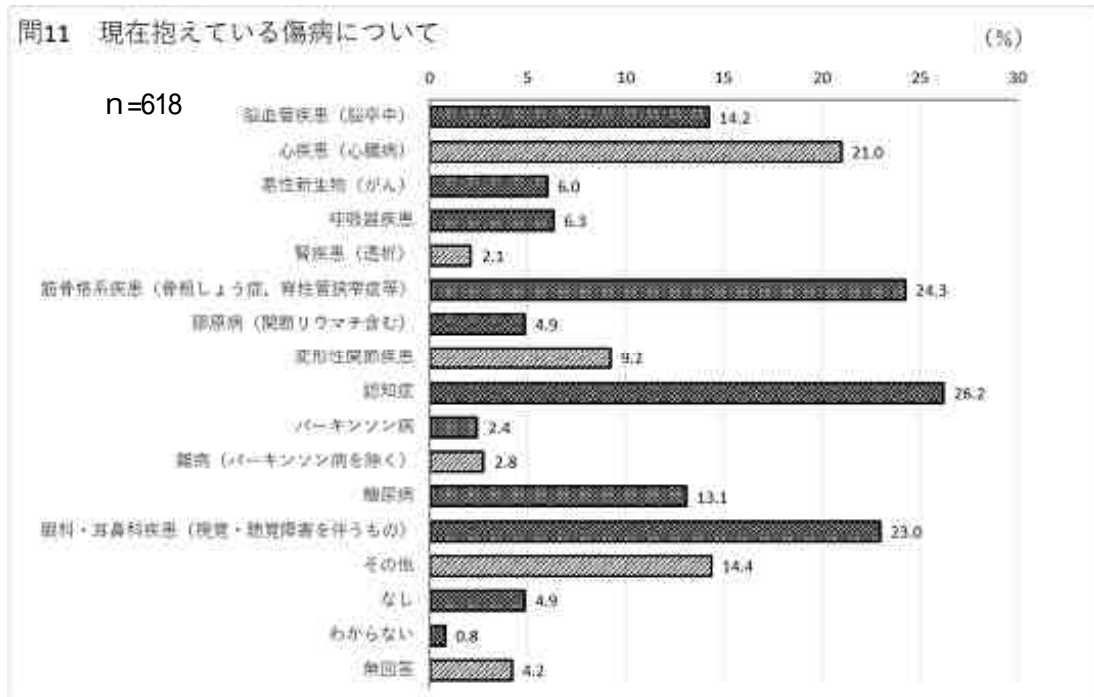
なお、現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、年齢階級別に見てみると、どの年齢階級においても検討していないという回答が多くなっています。また、95歳以上でも、58.1%が検討していないと回答しています。

問10. 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について（性別・年齢階級別クロス）

		全体	入所・入居は検討していない	入所・入居を検討している	すでに入所・入居申し込みをしている	無回答
全体		618 100.0	389 62.9	105 17.0	60 9.7	64 10.4
性別	男性	216 100.0	136 63.0	40 18.5	21 9.7	19 8.8
	女性	379 100.0	240 63.3	61 16.1	37 9.8	41 10.8
	無回答	23 100.0	13 56.5	4 17.4	2 8.7	4 17.4
年齢	65歳～69歳	20 100.0	14 70.0	4 20.0	2 10.0	- -
	70歳～74歳	48 100.0	29 60.4	7 14.6	5 10.4	7 14.6
	75歳～79歳	92 100.0	58 63.0	14 15.2	9 9.8	11 12.0
	80歳～84歳	108 100.0	69 63.9	23 21.3	5 4.6	11 10.2
	85歳～89歳	169 100.0	113 66.9	25 14.8	17 10.1	14 8.3
	90歳～94歳	114 100.0	67 58.8	21 18.4	11 9.6	15 13.2
	95歳以上	43 100.0	25 58.1	7 16.3	9 20.9	2 4.7
	無回答	24 100.0	14 58.3	4 16.7	2 8.3	4 16.7

（上段：集計値、下段：構成比）

現在抱えている傷病については、「認知症」が最も多く 26.2%、次いで、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が 24.3%、以下、「眼科・耳鼻疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 23.0%、「心疾患（心臓病）」が 21.0%の順となっています。



現在、訪問診療を利用しているかについては、「利用していない」が 76.4%、「利用している」が 19.4%となっています。8割弱の方が訪問診療を利用していないと回答しています。

